

防災意識—三重

Awareness of Disaster Prevention—Mie

南 泰代*

Yasuyo Minami

1. はじめに

(1) 研究の目的と背景

〔災害対策基本法〕（昭和三十六年法律第二百二十三号）（目的）第一条には、「この法律は、国土並びに国民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、防災に関し、基本理念を定め、国、地方公共団体及びその他の公共機関を通じて必要な体制を確立し、責任の所在を明確にするとともに、防災計画の作成、災害予防、災害応急対策、災害復旧及び防災に関する財政金融措置その他必要な災害対策の基本を定めることにより、総合的かつ計画的な防災行政の整備及び推進を図り、もって社会の秩序の維持と公共の福祉の確保に資することを目的とする」¹とある。災害には、暴風、竜巻、豪雨、豪雪、洪水、崖崩れ、土石流、高潮、地震、津波、噴火、地滑り、大火事、爆発等が含まれる。災害を未然に防止し、被害の拡大を防ぎ、及び災害の復旧を図ることが重要である。

三重は本土の真ん中に存在し、森林率も平均、人口密度 22 位、コロナ患者も 22 位前後と平均的な地域である。名古屋圏や大阪圏のベッドタウンとなっている地域でもあるが、過疎地域を多く含む地域でもある。海に面する地域と山の中にある地域があり、全ての面で平均的な地域といえるのである。

三重では、1959 年 9 月 26 日の伊勢湾台風が与えた被害が甚大で、全壊家屋 3 万 6,135 棟、半壊家屋 11 万 3,052 棟、流失家屋 4,703 棟、死者 5,098 人、被災者数は全国で約 153 万人に及んだ。筆者は当時 4 歳で、家の中で長靴の中に水が入って「びちゃ

びちゃになった」と騒いだ記憶が今も残るほどである。この台風は進路予想があったのにも関わらず、予想をはるかに超えた。また、行政側の避難誘導や防災体制が不十分で、住民自身も台風災害に対する認識が希薄だった。この伊勢湾台風を教訓として、災害対策について定めた〔災害対策基本法〕ができたのである。

三重では、伊勢湾台風以降、米の改良が進み 4 月に田植え、8 月には稲刈りをするという地域になった。筆者は奈良、岐阜、京都、兵庫と通学、通勤をしたため、毎年その違いに驚くほどであった。

日本は地震大国で、小学生から地震について勉強をしている国である。しかし、伊勢湾台風を体験した住民も今では少なく、三重では防災に対する意識が薄い。2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分頃、日本中で正月を祝っていた時に大地震が起きた。能登地震である。一家団欒の時に地震が起き、三重でも大きく揺れを感じた地震であった。その後、能登では多くの人々が被災し、一年が過ぎて、やっと仮住まいに入れた住民も多い。三重からも多くの人々が救助活動に出向いた。

2024 年 8 月 8 日 16 時 43 分日向灘宮崎で大地震が起き、南海トラフの危険があると太平洋側に「南海トラフ地震臨時情報」が初めて出された。三重では、水や米の買いだめが起きた。三重は水道水がそのまま飲料水にできる地域の為、水はなんとかしのごうことができた。米は、毎年 8 月は稲刈りが始まる時期で、新米の出る直前であった。例年ならば、古米が売れ残り積まれている時期であるが、その米がなくなったのである。ようやく 9 月になり、新

* 学術博士 防災コーディネーター 防災士 設計士 (有) ピース設計 ユマニテック短期大学

米が出回った。しかし、例年の2倍以上の金額となった。例年10キロ約3,000円が5キロ約3,000円以上となったのである。そして、政府は回復したが、高額のままとなった。この大地震で、防災意識ができたかどうか、2024年8月から12月まで三重県内でアンケート調査を行った。今後起きると予想されている南海トラフ等の災害に対して防災意識が高まることを願うものである。

2. 地震の現状

震度 1. 2. 3. 程度を含めると毎日日本中で地震が起きているのである。2023年10月136回、11月149回、12月148回、2024年1月1,042回、2月264回、3月202回、4月233回、5月132回、6月143回、7月131回、8月137回、9月132回、10月131回、11月245回、12月145回と毎月130回以上の地震が起きているのである。1月は能登での地震が毎日のように続いたので1000回を超える。何時、何処で災害に巻き込まれるのか解らないのである。日本で暮らすには、日ごろから防災意識を持つ意識が必要なのである。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1日	7	5	4	54	16	11	7	4	4	6	4	6	5	6	9
2日	5	4	5	182	9	16	9	6	2	2	2	3	1	6	11
3日	6	3	6	136	10	10	12	8	14	4	6	8	2	5	3
4日	3	4	12	68	12	7	7	5	3	6	2	5	7	2	9
5日	5	7	6	80	9	9	4	4	3	3	1	2	3	4	7
6日	3	2	3	59	11	5	7	3	6	5	5	5	4	6	9
7日	3	6	2	41	11	15	3	4	2	5	1	3	5	10	3
8日	4	8	7	27	10	7	9	4	2	2	12	9	3	3	4
9日	9	4	3	35	8	10	8	3	2	1	12	7	1	4	5
10日	3	7	2	38	11	2	5	6	3	7	8	4	3	4	2
11日	5	9	1	25	8	6	6	7	6	7	7	0	5	5	1
12日	4	7	4	25	9	4	5	5	6	1	4	7	3	2	4
13日	5	3	4	23	2	5	8	3	2	4	4	4	2	5	5
14日	5	4	3	24	12	13	3	2	2	0	3	5	6	6	5
15日	1	7	3	18	11	7	2	3	8	4	4	3	4	1	8
16日	8	8	5	20	10	5	4	5	4	3	5	6	4	6	4
17日	2	2	5	13	8	5	12	5	2	5	4	1	2	7	5
18日	2	7	1	11	11	6	32	4	6	7	6	5	5	4	2
19日	4	7	5	24	6	4	10	4	13	7	5	5	8	3	2
20日	6	6	1	14	8	3	8	2	10	2	3	7	4	6	5
21日	5	2	6	8	1	4	10	4	7	6	4	4	5	3	7
22日	4	6	7	15	2	6	4	5	3	9	3	3	2	4	3
23日	6	4	3	11	3	5	6	3	5	2	5	6	11	4	2
24日	8	2	6	13	8	5	10	2	5	2	5	8	4	3	6
25日	5	4	5	9	7	6	6	3	5	3	3	1	11	4	2
26日	4	3	11	15	7	4	7	6	0	2	3	4	6	23	2
27日	1	4	12	9	16	3	6	3	6	3	5	5	3	59	4
28日	5	3	8	10	13	5	7	4	7	11	2	1	3	21	5
29日	3	6	3	9	15	5	9	6	2	1	2	2	2	13	4
30日	2	5	3	18		4	7	4	3	6	4	3	5	16	5
31日	3	/	2	8	/	5	/	5	/	5	3	/	2	/	2
	136	149	148	1042	264	202	233	132	143	131	137	132	131	245	145

3. 大地震

① 能登地震 2024年1月1日16時10分頃、石川県能登地方輪島の東北東30km付近M7.6の大地震が起きた。震源の深さ約16km、震度7、死者360人、建物被害全壊8,571棟、半壊1万6,584棟である。

能登地震以前の地震状況を遡ってみると、2023年12月24日8時7分能登半島沖M3.7、12月21日5時11分能登半島沖M3.7、12月5日8時35分能登半島沖M3.2、10月25日8時50分能登半島沖M3.6、10月21日23時10分能登半島沖M2.5が起きている。能登地域の12月はM3以上6回、11月はM2以上2回、10月はM2以上10回、9月はM4以上2回、M2以上9回、8月はM2以上2回起きている。規模は小さいが頻繁に起きていた。この状況下で予知ができなかったのであろうか。もう少し、地震対策がなされていたら、これほどの被害にはならなかったのではないだろうか。1月1日の大地震後、5月まで毎日地震が続いた。その後も毎日ではないが頻繁に起きている。

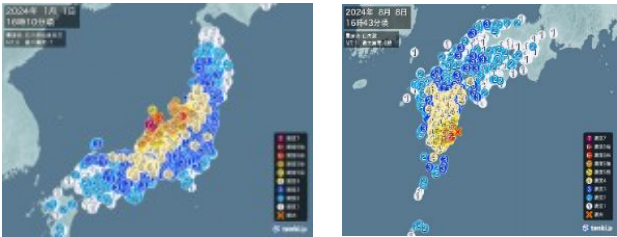
② 日向灘地震 2024年8月8日16時43分日向灘宮崎の東南東30km付近M7.1の大地震が起きた。

日向灘地震以前の地震状況を遡ってみると、7月30日1時25分日向灘M5.2、7月27日6時26分日向灘M3.6、7月18日20時37分日向灘M3.5、6月30日日向灘M4.1、6月22日日向灘M3.3、5月23日12時26分日向灘M2.9の地震が起きていた。日向灘をみると、7月M3以上3回、1回は7月30日M5.2である。6月3回、4月2回M4の地震が起きている。回数は能登地震のように多くはないが、M4、M5が出た時点で対策がとられていれば死者が少なかったのではないかと考える。

南海トラフの危険があるとされ、「南海トラフ地震臨時情報」が発令された。1週間の危険情報が出されお盆の帰省が止められた。新幹線やJRが減数された。三重は私鉄の近鉄電車が占めている地域の為、近鉄電車の特急が伊勢までになり、海岸線に南下することが止められた。多くの住民は不便を

強いられた。住民は不安な日々を過ごしたが、大きな地震や津波もなく、無事に 1 週間が過ぎ解除された。

南海トラフ巨大地震がひとたび発生すると、静岡県から宮崎県にかけて、一部では震度 7 となる可能性があるほか、それに隣接する周辺の広い地域では震度 6 強か 6 弱の強い揺れになると想定されている。また、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に 10m を超える大津波の襲来が想定されている。南海トラフは M8～9、死者最大 32 万 3 千人、負傷者 62 万 3 千人、全壊 238 万 6 千棟と想定されているのである。



(写真 1 能登大地震)		(写真 2 日向灘沖宮崎県)	
1月1日16時10分能登 東北東30 k m 付近M7.6 大地震以前		8月8日16時43分日向灘宮崎 東南東30 k m 付近M7.1 大地震以前	
1月1日	M5.7	7月30日	M5.2
12月27日	M3.1	7月27日	M3.6
12月24日	M3.7	7月18日	M3.5
12月21日	M3.7	6月30日	M4.1
12月12日	M3.3	6月22日	M3.3
12月5日	M3.2	6月20日	M2.9
12月4日	M3.2	6月17日	M4.3
11月22日	M2.5	6月17日	M4.6
11月19日	M2.7	5月23日	M2.9
11月10日	M3.5	4月11日	M2.8
11月2日	M2.9	4月8日	M4.5
10月29日	M2.7	4月6日	M4.0
10月28日	M3.1		
10月25日	M3.6		
10月24日	M3.1		
10月24日	M3.1		
10月21日	M3.1		
10月13日	M2.8		
10月11日	M3.5		
10月11日	M2.4		
10月3日	M3.1		
9月29日	M2.7		
9月29日	M2.7		
9月28日	M4.2		
9月28日	M4.2		
9月28日	M2.9		
9月28日	M3.6		
9月25日	M3.8		
9月20日	M2.8		
9月15日	M2.5		
9月13日	M2.9		
9月2日	M3.6		
8月30日	M2.2		
8月3日	M2.5		

(日本気象情報協会 地震情報から筆者作成)

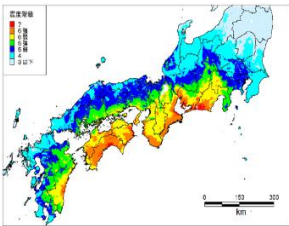
③M4 以上の地震

M4 以上を見ると、北海道から沖縄まで、日本中で起きていることがわかる。我が家は大丈夫という地域は日本ではないのである。

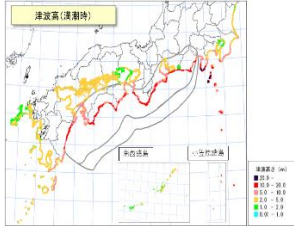
発生日時	震源地	M4以上	最大震度	
2024年12月28日4時10分頃	福島県沖	M5.1	4	
2024年12月17日22時11分	茨木健南部	M4.2	4	
2024年11月28日17時31分	石川県西方沖	M4.8	4	
2024年11月26日22時47分	石川県西方沖	M6.6	5弱	
2024年11月20日15時40分	陸奥湾	M5.1	4	
2024年11月16日21時22分	陸奥湾	M4.6	4	
2024年9月26日16時01分	釧路沖	M5.7	4	
2024年9月24日22時09分	留萌地方中北部	M3.6	4	
2024年9月20日21時22分	豊後水道	M4.7	4	
2024年08月19日00時50分頃	茨城県北部	M5.1	5弱	
2024年08月19日00時48分頃	茨城県北部	M4.7	4	
2024年08月15日20時20分頃	神奈川県西部	M4.4	4	
2024年08月09日19時57分頃	神奈川県西部	M5.3	5弱	
2024年08月08日16時43分頃	日向灘	M7.1	6弱	宮崎の東南東30 k m 付近
2024年07月30日01時25分頃	日向灘	M5.2	4	
2024年07月28日00時58分頃	岩手県内陸北部	M4.2	4	
2024年07月19日14時27分頃	岩手県内陸北部	M4.0	4	
2024年07月04日12時12分頃	千葉県東方沖	M5.4	4	
2024年06月23日12時12分頃	福島県沖	M4.9	4	
2024年06月03日06時40分頃	能登半島沖	M4.8	4	
2024年06月03日06時31分頃	石川県能登地方	M6.0	5強	
2024年06月01日04時02分頃	豊後水道	M4.5	4	
2024年05月31日04時46分頃	熊本県熊本地方	M4.6	4	
2024年05月21日09時39分頃	父島近海	M6.0	4	
2024年04月24日20時40分頃	茨城県北部	M5.0	4	
2024年04月17日23時19分頃	豊後水道	M5.0	4	
2024年04月17日23時14分頃	豊後水道	M6.6	6弱	
2024年04月08日10時25分頃	大隅半島東方沖	M5.1	5弱	
2024年04月04日12時16分頃	福島県沖	M6.0	4	
2024年04月03日08時58分頃	台湾付近	M7.7	4	
2024年04月02日04時24分頃	岩手県沿岸北部	M6.0	5弱	石垣島の西南西250 k m 付近
2024年03月23日08時31分頃	岐阜県美濃中西部	M4.7	4	
2024年03月21日09時08分頃	茨城県南部	M5.3	5弱	
2024年03月17日06時17分頃	福島県沖	M5.4	4	
2024年03月15日19時32分頃	奄美大島近海	M5.5	4	
2024年03月15日00時14分頃	福島県沖	M5.8	5弱	
2024年03月13日20時24分頃	福島県沖	M4.7	4	
2024年03月09日04時26分頃	千葉県東方沖	M4.5	4	
2024年03月02日23時00分頃	宮崎県北部平野部	M4.3	4	
2024年03月02日01時49分頃	千葉県南部	M5.0	4	
2024年03月01日05時43分頃	千葉県東方沖	M5.2	4	
2024年02月29日18時35分頃	千葉県東方沖	M4.9	4	
2024年02月26日15時24分頃	愛媛県南予	M5.1	4	
2024年02月14日15時29分頃	京都府南部	M4.3	4	

(日本気象情報協会 地震情報から筆者作成)

④地震以外 地震以外にも、大雨、台風等による被害が起きている。



(写真 3 震度)



(写真 4 津波)

これら自然災害から命を守るためには、日ごろから防災知識を身につけ、備えをしておく必要がある。1月の能登の大地震から防災意識が高まっている。昨年8月の全国防災対策費は2052円より2831円に上がった。気象庁が発表した南海トラフ地震の注意情報を受けて、飲料水やトイレトペーパー、育児ミルク、米の売り上げが伸びた。しかし、大きな地震が起きた時だけ、備えるのではなく、日常に防災の意識を高める必要があると考える。防災意識を高めるために、アンケート調査を行った。

4 防災意識の調査結果

「災害はいつ起こるかわかりません。自宅で3日間、救助を待てる用意が必要と言われています。皆様、防災意識を高めるために、アンケートにご協力をお願いできませんか。学会で発表します。秘密厳守をいたします」と記し三重県中500枚配布し、300枚のご協力をいただいた。

【調査対象】

男性35.3%の106人、女性64.3%の193人、無記1人の計300人である。(多様性のため性別は記述とした)年代は、10代5.3%の16人、20代9%の27人、30代16.6%の50人、40代12%の36人、50代13.3%の40人、60代26%の78人、70代11%の33人、80代6.3%の19人、90代0.3%の1人である。

【個人の意識】

①何人で住んでいますかは、1人住18%の55人、2人住35.6%の107人、3人住17.6%の53人、4人住18.6%の56人、5人住7.3%の22人、6人住1.3%の4人、7人住1%の3人である。

1人住は20代、30代が多く、70代になるとまた多くなる。40代は4人住と3人住が多い。50代になると2人住が多くなり、5割弱が2人住か1人住である。60代になると7割強、70代は8割弱になる。80代になると5割強は1人住になる。配偶者が施設に入るか、亡くなるということである。

②自宅から避難場所まで歩いて何分ですかは、5分

33.6%の101人、10分28.3%の85人、15分19.6%の59人、20分9.6%の29人、30分7.3%の22人、30分以上1.3%の4人である。

10分以内は62%の186人で6割強、15分以内は81.6%の245人で8割強である。20分以上は18.3%の55人である。2割弱の人が20分以上かかるということである。30分と30分以上は8.6%と1割弱もある。災害時に、高齢者が20分以上歩いて避難場所まで行くことは困難であろう。

③自力で安全な場所まで歩いて行く自信があるかは、自信がある69.6%の209人、少し不安21.6%の65人、不安8.3%の25人、無理0.3%の1人である。自信があるは7割である。自信があるは60代70.5%、70代63.6%、80代36.8%である。60代は3割、70代は4割弱、80代は7割弱が自信がないのである。

④子どもや家族を安全な場所に連れて行く自信があるかは、自信がある42.3%の127人、少し不安37.3%の112人、不安11.6%の35人、無理8.6%の26人である。4割の人は自信があるが、6割の人は自信がない。年齢に関係なく、子どもや家族を誘導することには不安があるのである。

⑤災害が起きた時非難場所を決めているかは、決めている63.6%の191人、決めていない36.3%の109人である。6割強の人が決めている。決めているは、10代75%、70代75.7%、80代94.7%、90代100%と多い。

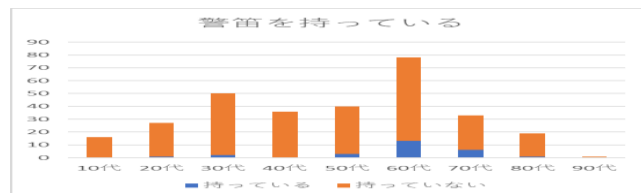
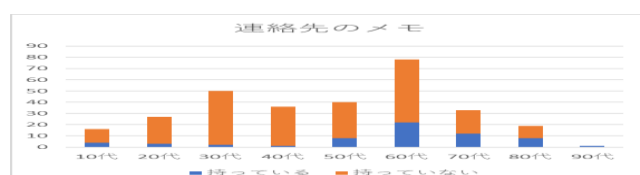
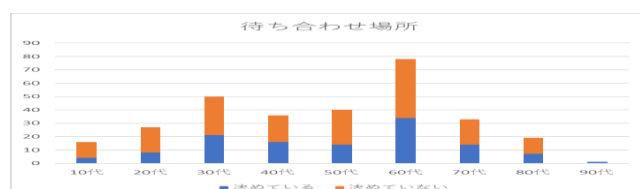
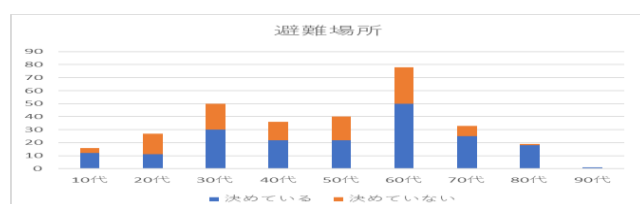
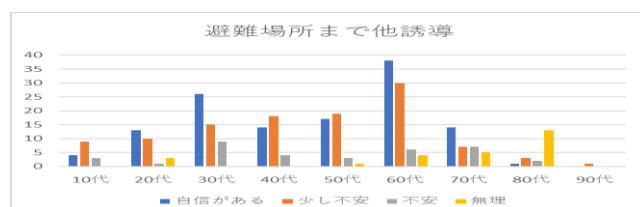
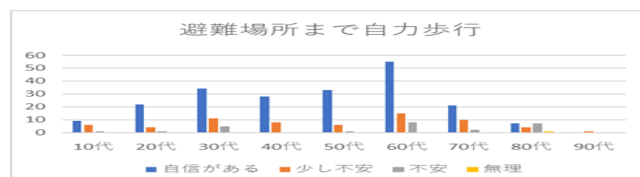
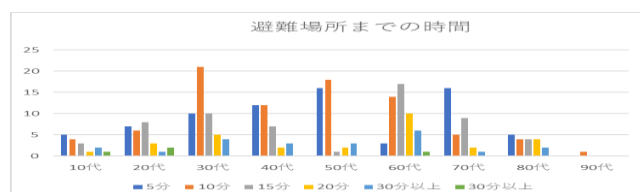
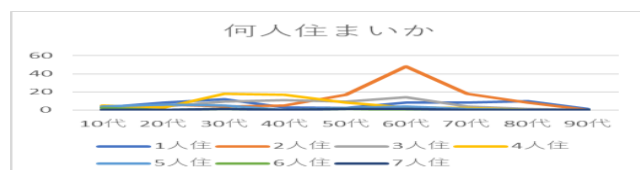
⑥家族が離れ離れになった時、待ち合わせ場所を決めているかは、決めている39.6%の119人、決めていない60.3%の181人である。4割弱の人しか決めていない。決めているは、70代42.4%、80代36.8%と少ない。避難場所は決めている人は6割強あるのに、待ち合わせ場所は決めている人が少ない。

⑦常に、自分の名前・血液型・薬・家族の連絡先のメモを持っているは、持っている20.3%の61人、持っていない79.6%の239人である。2割の人しか持っていないのである。持つ意識が10代25%とあるのに対して、50代20%、60代28.2%、70代

36.3%、80代42.1%と持つ意識がある人が少ない。筆者は50代から持つようになった。

⑧常に警笛を持ち歩いているかは、持っている8.6%の26人、持っていない91.3%の274人である。1割弱の人しか持っていない。持っているは、50代7.5%、60代16.6%、70代18.1%、80代5.2%、90代0人である。70代、80代、90代でも意識がない人が多いのである。

(個人の意識 年代別 表1~8)



【家庭内の意識】

① 自宅の耐震補強を全部補強したかは、全部補強した19.6%の59人、一部補強した25.3%の76人、補強していない58%の174人である。全部補強と一部補強は、42%の126人である。6割弱の人が耐震補強をしていないことがわかる。

内閣府2018年1月発表の耐震世論調査では、している28.3%、していないは51.5%とある。

補強していない10代62.5%、20代77.7%、30代60%、60代58%、80代57.8%、90代1人である。市が推進しているが進んでいないようである。
② 自宅で待機できるような環境確保をしているかは、している47.6%の143人、していない51.6%の155人である。しているは5割弱である。環境確保をしていないは、60代43.5%、70代51.5%、80代78.9%、90代1人である。80代がしていない人が多い。

③ 家具には突っ張り棒等で安全確保をしているかは、している38.3%の115人、していない61.6%の185人である。していないが6割強である。安全確保していない60代55.1%、70代42.4%、80代68.4%、90代1人である。安価で安全確保ができるのにしていないのが現状なのである。

④ 懐中電灯を用意して電池交換をしていますかは、している73.3%の220人、していない26.6%の80人である。していないは3割弱である。簡単な作業で安全確保ができるのにしていない。

⑤ 携帯ラジオを用意して、電池交換をしていますかは、している48.6%の146人、していない51.3%の154人である。しているは5割弱である。している60代62.8%、70代63.6%、80代73.6%である。60代以上の世代はスマホやテレビより、ラジオで育った年代なので、日常にラジオをつけている人が多い。筆者もキッチンに置いている。

⑥ スマホの予備電源の用意をしていますかは、し

ている 66.6%の 200 人、していない 33.3%の 100 人である。していない人が 3 割強である。していない 70 代 42.4%、80 代 63.1%と多い。

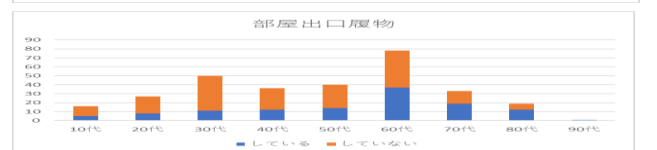
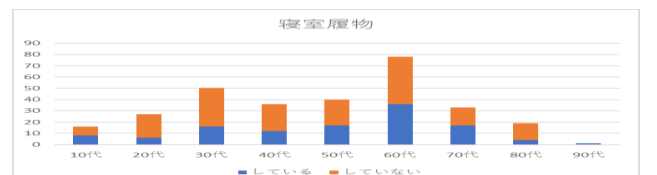
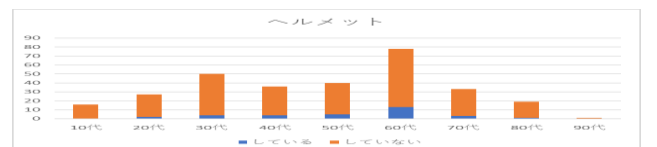
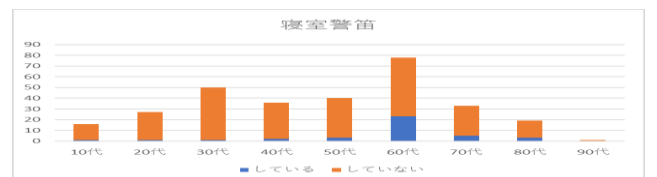
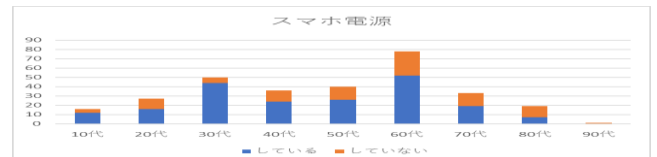
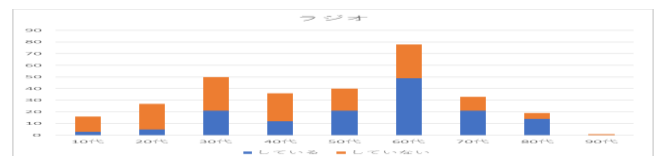
⑦寝室に警笛の用意をしているかは、している 13%の 39 人、していない 87%の 261 人である。していない人が 9 割弱と多い。していない 60 代 70.5%、70 代 84.8%、80 代 84.2%、90 代 1 人である。

⑧寝室にヘルメットの用意をしている 10.6%の 32 人、していない 89.3%の 268 人である。していない人は 9 割弱と多い。していないは 10 代 100%、20 代 92.5%、30 代 92%、70 代 90.9%、80 代 94.7%と多い。

⑨寝室にスリッパ等履いて逃げることができる履物の用意をしている 39%の 117 人、していない 61%の 183 人である。していない人は 6 割である。していない 20 代 77.7%、30 代 68%、40 代 66.6%、80 代 78.9%と多い。

⑩部屋の出口や窓の下に履いて逃げることができる履物の用意をしている 39.6%の 119 人、していない 60.3%の 181 人である。していない人は 6 割である。していない 70 代 42.4%、80 代 36.8%である。

(家庭内の意識 年代別 表 1～10)



[3 日間待機準備]

①自宅に簡易トイレを用意しているかは、充分している 12%の 36 人、半分ぐらい 24.3%の 73 人、していない 63.6%の 191 人である。6 割強が用意をしていない。

②車に簡易トイレを用意をしているかは、充分している 5.6%の 17 人、半分ぐらい 14%の 42 人、していない 80.3%の 241 人である。8 割が用意をしていない。

③1 人、3 リットル×3 日分以上の飲料水の確保をしているかは、充分している 29.3%の 88 人、半分ぐらい 39.6%の 119 人、していない 31%の 93 人である。3 割強が用意をしていない。

④3 日分のご飯、缶詰、乾パン等、食料の確保をしているかは、充分している 25.6%の 77 人、半分ぐらい 41.6%の 125 人、していない 32.6%の 98 人である。3 割強が用意をしていない。

⑤防災袋の用意をしているかは、充分している 25.6%の 77 人、半分ぐらい 32%の 96 人、していない 42.3%の 127 人である。4 割強が用意をしていない。

⑥簡易防寒具の用意をしているかは、充分している 17.6%の 53 人、半分ぐらい 31%の 93 人、していない 51.3%の 154 人である。5 割強が用意をしていない。

⑦救急セットやマスクの用意をしているかは、充分している 27%の 81 人、半分ぐらい 42.6%の 128 人、していない 30.3%の 91 人である。3 割が用意をしていない。

⑧歯磨きグッズやせっけんの用意をしているかは、充分している 26%の 78 人、半分ぐらい 36.6%の 110 人、していない 37.3%の 112 人である。4 割弱が用意をしていない。

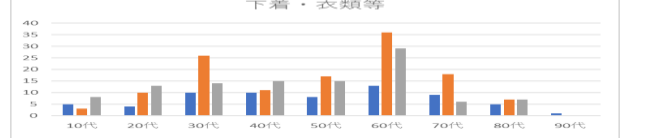
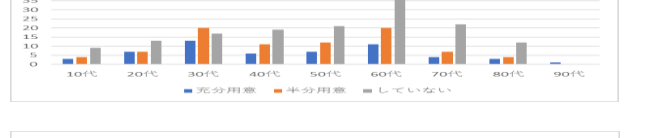
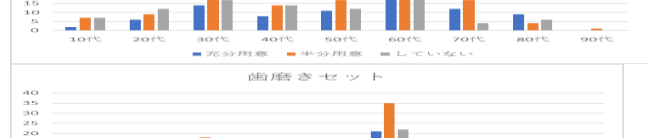
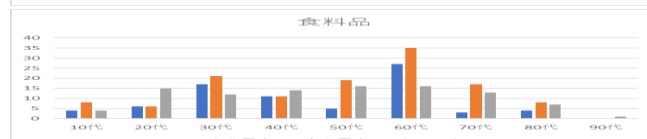
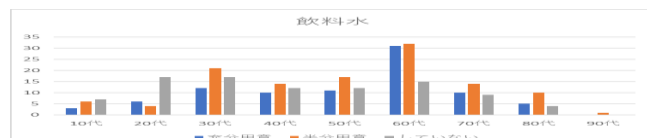
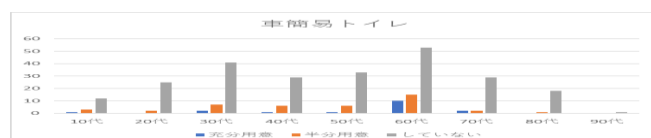
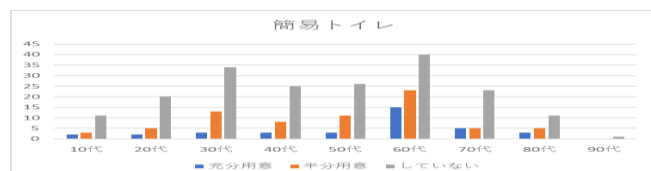
⑨女性の為の生理用品の用意をしているかは、充分している 18.3%の 55 人、半分ぐらい 28.3%の 85 人、していない 53.3%の 160 人である。5 割強が用意をしていない。

⑩タオルや下着などの最低限の衣類の用意をしているかは、充分している 21.6%の 65 人、半分ぐらい 42.6%の 128 人、していない 35.6%の 107 人である。4 割弱が用意をしていない。

⑪常備薬の用意をしているかは、充分している 27%の 81 人、半分ぐらい 32%の 96 人、していない 41%の 123 人である。4 割強が用意をしていない。

⑫地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入しているかは、加入 55.3%の 166 人、不加入 44.6%の 134 人である。4 割強が不加入である。

(3 日間待機準備 年代別 表 1~12)



[気になること、心配ごと] (自由記述)

[高齢者になり、いざとなった時に慌ててしまうのではないかと思います] [1 人住まいなので、怖い]

[耐震補強をする資金もない] [アパートなので、何処まで安全か解らない] [今は主人がいるが、い

なくなった時が不安だ」[家族を連れて行けるか心配]「水や食料を数年で交換しているが、食べることもできず捨てている。お金もいる」[避難所の小学校が、団地の家より低い所にあるので、行かないと思う]「避難所の小学校まで 20 分以上かかるので行けない」とある。

5 避難所、避難場所、AED、警笛・メモについて (避難所の小学校・公民館)



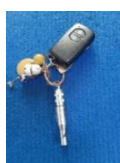
(津波対策避難場所)



(AED設置の小学校・公民館)



(AED) (常時持参の警笛・メモ)



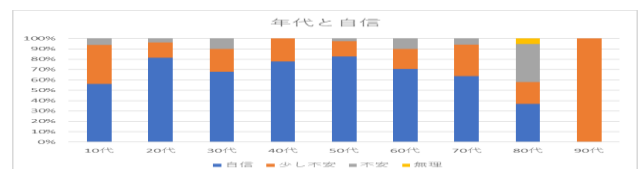
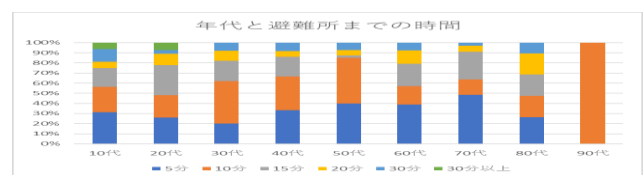
6 まとめ

個人の意識では、年代と避難場所までの時間と年代と避難場所まで行く自信と比較すると、10代は10分までは自信、20代は15分までは自信、30代は15分までは自信、40代は15分までは自信、50代は10分までは自信、60代は15分までは自信、70代は10分までは自信、80代は10分までは自信

があるといえる。つまり、高齢者社会が急激に進む三重では、避難所までの時間は10分、長くても15分以内にしなければならないといえる。

三重では、小学校や中学校が避難場所になっている地域が多く、学校がない地域では避難所までの時間が長くなる。百貨店やデパートがなくなっているため、高い建物に逃げることもできない地域も多い。近くにあるという理由で、安全の確保が不十分な公民館や廃校になった学校に避難することも危険である。

(年代と避難場所までの時間・自信 表1～2)



家族での待ち合わせ場所を決めること、メモや警笛の日常の備えも必要といえる。

家庭内の意識では、耐震補強、待機場所の確保、突っ張り棒等での安全確保、懐中電灯、ラジオ、予備電源、ヘルメット、警笛、メモ、履物等を常備備える意識が薄いことがわかった。

3日間待機準備では、簡易トイレの用意、水や食料の他に避難袋の中にマスク、薬、生理用品等を備える意識も薄いことがわかった。

災害は、何時、何処で起きるか解らないのである。予想も難しく、予想を超える災害が発生している現実を忘れてはいけない。家族と話し合いを十分にしておくことが重要であると考えます。

最後に、「アンケートをして、待機準備をしなくてはならないと思った」と記述が多かったのである。思うだけでなく、すぐに準備をしていただきたいと願うものである。

¹ 内閣府 <https://laws.egov.go.jp/law/336AC0000000223/>